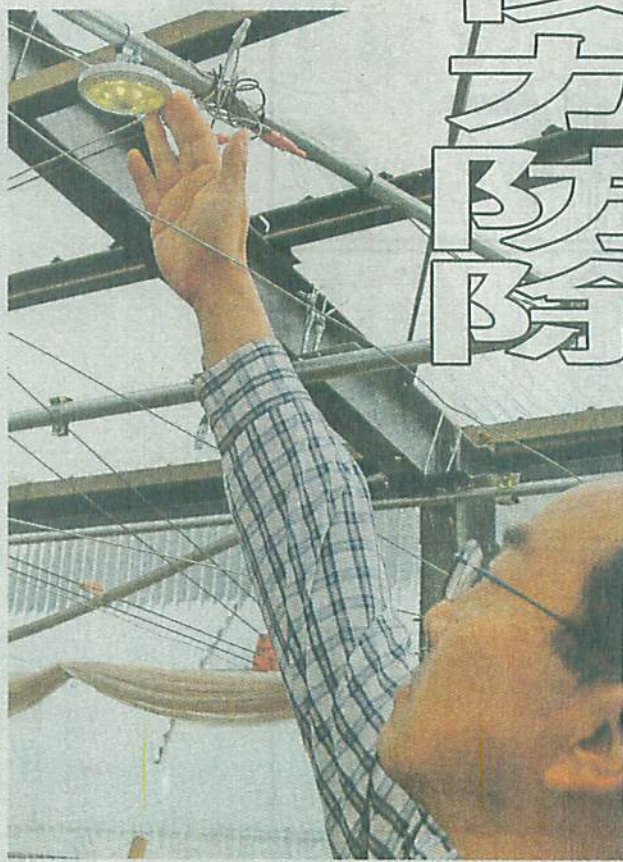


LEDで夜ガ防除

緑がかった黄色光を発するLED利用の害虫防除装置(長野市の県野菜花き試験場で)



J A全農長野、長野県野菜花き試験場などは、発光ダイオード(LED)を使ったオオタバコガなど夜ガ類の害虫防除装置を開発した。日没後のハウス内を570ナジの波長のLEDで照らし、夜間に活発な夜ガ類の行動を抑える。消費電力は従来の黄色蛍光灯の15分の1程度に激減する。今月中に製品化され、県内の施設野菜・花き農家に普及する。

消費電力15分の1 他作物の光害抑え

全農長野など普及へ

全農長野と試験場は、オオタバコガの行動を抑える光の波長を570ナジと突き止めた。この波長がピークのLED開発を豊田合成(愛知)に依頼。長野県小諸市の資材会社・ネイブルが製品化した。「レビガード」の商品名で今月から売り出す予定だ。

装置1個にLEDチップを6枚埋め込む。大きさは直径75ミ、重さ55g。標準的な間口6ナジ、奥行き21ナジの施設では、3ナジ間隔で高さ2ナジ前後を目安に12〜14個設置す

る。費用は制御盤込みで6万〜7万円程度だ。オオタバコガはこれまで殺虫剤や黄色蛍光灯などで防除した。しかし黄色蛍光灯は電力消費が多く、強い光が近隣人家の迷惑になり、水稲の出穂や菊の花芽分化などに影響した。LEDの光は微弱で、作物への影響を最小限に抑えられる。

同試験場の豊嶋悟郎主任研究員は「500平方ナジのハウスでは、初期投資費用は黄色蛍光灯より2万円ほど高いが、電気代はかなり安く、5〜7年ぐらい持つ。早い段階で採算は合う」とみる。J A長野県営農センターは「IPM(総合的病害虫・雑草管理)の推進には極めて有効な手段で、農家経営に役立つ」と評価。今年度は被害の大きいカーネーション農

日本ロングマット水稲として紹介した。苗推進協議会、中央農業総合研究センター(中央農研)などは9日、ロングマット水稲苗を無人田植え機で移植する実演会を、茨城県つくば市で開いた。導入農家と研究者が連携し、育苗・移植作業を大幅に省力化する技術

ロングマット苗とGPS田植え機

から位置情報を受信する機能も備え、自動的に植え付ける。6条の田植え機に長さ6ナジ(育苗箱で10箱分)のロングマット苗6束を搭載。30ナを苗

機に長さ6ナジ(育苗箱で10箱分)のロングマット苗6束を搭載。30ナを苗

ん(65)は「育苗箱の運搬と移植作業が大幅に軽減できる。夢の技術だ」と、普及に期待する。周辺農家らのほか、小学生も見学。6年生男児は「誰もが機械に乗らず、田植えができるのはすごい」と感心していた。

夢の技術実演

GM試験栽培 17日に説明会

農業生物資源研究所は17日、2008年度に同研究所が進める遺伝子組み換え(GM)の稲や大豆、トウモロコシの試験栽培についての説明会を研究所内で開く。

説明会は、GM作物の試験栽培への国民の不安解消や理解促進が目的。

家の協力で現地試験もを行い、効果を確認する。



すいかの子っこ